

議会だよ入善

GIKAI

DAYORI

NYUZEN

No.159
2011年10月27日



いくつ入るかな (青木保育所)

9月定例会

青野パークゴルフ場拡張へ (補正予算)	2p
TPP交渉参加に反対 (議員提出議案)	3p
使用済み小型家電を収集 (常任委員会レポート)	4~5p
町政を問う 一般質問 (8議員)	6~13p
活発な防災ボランティア活動 (常任委員会視察記)	14p
友好の絆 震災後の訪問 (宮城県登米市)	15p
三味線の音色に魅せられて (生涯現役)	16p

青野パークゴルフ場を拡張 27ホールから36ホールへ

9月議会の
あらまし

補正予算の概要

9月議会は、2日から15日までの14日間開会し、町長から提案のあった平成23年度補正予算2件、条例の一部改正議案3件や教育委員会委員の任命の同意、議員提出議案3件を審議し、すべて可決した。
また、請願1件、陳情1件を審査したほか、8日・9日に一般質問が行われ、8人の議員が質問に立ち、論戦が交わされた。

**青野パークゴルフ場拡張
整備事業**
1500万円

一般会計の補正予算は、青野パークゴルフ場拡張整備の造成工事費や子育て家庭外出サポートのための備品購入費などである。

一般会計では、5081万円を追加し、総額95億414万円とした。

主な事業

**子育て家庭外出サポート
事業**
100万円

うるおい館に、おむつ交換ベッドや授乳カーテンなどを設置し、子育て家庭が安心して外出できる環境を整備する。

**小型家電リサイクル推進
事業**
105万円

電子レンジなどの使用済み小型家電をリサイクルするため、中央再生広場に回収コンテナを設置し資源回収を行う。



青野パークゴルフ場の増設予定地

青野パークゴルフ場に9ホールを増設整備するため、造成工事を行い、平成25年春からの使用開始を目指す。

消火栓標識設置
104万円

舟見地区において、降雪時にも消火栓の位置が分かるよう標識を設置する。

コスモホール自主文化事業
290万円

コスモホール開館25周年記念事業の内容を拡充して行うため、補助金を増額する。

**太陽光発電システム設置
補助**
210万円

住宅用の太陽光発電システムの設置者が増えたため、補助金を増額する。

農業用水などの保安全管理
129万円

農業用水路の補修や農道舗装の更新などの活動を行う集落に対し、国からの交付金を補助する。

じょうべのま遺跡管理事業
230万円

じょうべのま遺跡の休憩所のボヤによる損傷箇所や、老朽箇所を修繕する。

主な条例の改正

条例等の一部改正

◎主な改正内容

- ・東日本大震災の被災者に対する住宅ローン控除や雑損控除について特例を適用する。
- ・県民税の改正に合わせて、町民税の寄附金控除の対象にNPO法人などを含める。
- ・不申告に関する過料の上限額を引き上げる。3万円以下↓10万円以下

災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正

災害弔慰金の支給対象となる遺族の範囲に、生計同一であった兄弟姉妹を加える。

教育委員会委員の任命に同意

平成23年10月8日で任期満了となる柳澤功氏の再任と、9月30日で退任される山本光代氏の後任として、島加代子氏の任命にそれぞれ同意した。



柳澤 功氏
(上野)



島 加代子氏
(荒又)

議員提出議案

●**円高・デフレを克服する経済対策を求める意見書**

円高デフレ傾向が長期化し、東日本大震災による経済情勢の悪化が懸念されている。円高傾向が続けば企業の海外移転、産業空洞化が進行する。抜本的な円高・デフレ対策に取組むよう、国に意見書を提出する。

賛成全員で可決とした

●**環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）交渉参加反対に関する意見書**

例外なく関税が撤廃されれば、農業経営が壊滅的な打撃を受け、地域経済の衰退に直結しかねない。農林水産業の保護や競争力強化の具体策が示されないままでのTPP交渉への参加を行わないよう、国に意見書を提出する。

賛成全員で可決とした

●**「介護職員待遇改善交付金事業」を平成24年度以降も継続することを求める意見書**

介護職員の待遇改善は、いまだ改善された状況ではない。離職者が依然として多く、事業者は介護職員の確保に苦慮している。よって引き続き24年度以降もこの事業を継続するよう、国に意見書を提出する。

賛成全員で可決とした

決算特別委員会を設置

平成22年度入善町一般会計および特別会計の歳入歳出決算の審査について、次期12月定例会まで決算特別委員会を設置し、審査することとした。

委員は次のとおり

委員長	鬼原 征彦
副委員長	笹島 春人
委員	九里 郁子
委員	佐藤 一仁
委員	野島 浩

請願・陳情

東洋紡績北側水路改修と環境整備に関する請願書

請願者

入善6区区長

東洋紡績北側の水路の維持管理や草刈などは困難である。町の西側水路や道路の改良の計画にあわせ、この地域の整備を求める。

賛成全員で採択とした

●**「介護職員待遇改善交付金事業」を平成24年度以降も継続することを求める国への意見書採択を求める陳情書**

陳情者

富山県医療労働組合連合会

平成23年度末で終了する「介護職員待遇改善交付金事業」の継続を求めるため、国に対して意見書の提出を求める。

賛成全員で採択とした

レポ ー ト

総務 常任委員会

グループホームに小型除雪機と楽器購入へ助成

Q 「地域支え合い活動支援事業」で、グループホームに助成するとあるが、具体的な内容は、地域との交流に必要な備品への助成である。

A にかわ苑「双葉」の小型除雪機と音楽会に必要な楽器購入に対し助成するもの。

うるおい館におむつ交換ベッドを設置

Q 子育て家庭外出サポート事業費が計上されているが、子育て家庭に補助を出すのか。

A 個人への補助では無く、子育て世代の外出を促すためのもの。外出先施設へという事で「うるおい館」に、乳

児のおむつ交換ベッドや授乳カーテンなどを設置する。

使用済み小型家電を収集

Q ごみ減量化、再生利用を推進するために新たに小型家電も収集することのこと。

花月公園駐車場の中央

再生広場に集積場を設置することのだが、住民に周知徹底されたい。

A 使用済み小型家電にはゲーム機、携帯電話、電子辞書、ビデオなど45品目があり、リサイクルのため収集し中間処理施設へ運ぶ。看板と集めた家電を入れるコンテナを設置する。



11月から収集される小型家電

消火栓 19基に標識を

Q 非常備消防運営費のなかで工事費があるが、その内容は、

A 舟見地区には21カ所の消火栓がある。降雪時には位置が分かりづらい19カ所に標識を設置するもの。

社会資本整備総合交付金事業の内容は

Q 国庫支出金の中に、社会資本整備総合交付金があるが、その使い道は。

A 平成22年度から国が地方のハード事業に一括交付金として出した。今回は、新上野住宅の



消火栓の標識

消雪改修に対し、事業費の増額が認められた。

こんな意見も

● 今回の補正は、生活に密着した事業が多い。早期に執行してほしい。

● 民間福祉施設に対する補助は、事業者等に等しく制度の情報を提供し、どの事業所でも活用できるようにしてほしい。

● 介護従事者待遇改善交付金事業は、一時的な補助ではなく、恒久的な制度にすべきだ。

常任委員会

産業教育 常任委員会

「農地・水保全管理支払交付金事業」の内容は

Q これまでの「農地・水・環境保全向上対策」が、本年度からこの事業名で取組まれる。

事業の概要と取組状況は。

A 老朽化が進む農業用水路、農道などの長寿命化のため補修、更新などを行う集落に支援するもの。

本年度、4団体の申込があり、目川、青島の2カ所が採択された。

5カ年にわたって取組む事業。

Q 各地に水路の問題がある中、他町に比べ申請が少ないと聞いている。上から目線で細かいルールを言えば離れて行く。

この事業は地域おこしのためにも意義がある。全地区で取組めるよう周

知と支援を進めて欲しい。

A 条件さえ整えば可能だが、会計検査院の対応など事務的に煩雑なため、集落での対応が難しくかつたのではと考える。申請件数が増えるよう支援したい。

青野パークゴルフ場増設工事の補正は

Q 増設工事は、年度当初の予定にはなかった。今、取組むのはなぜか。

A 6月から9月までの出水期には、増設工事ができないことから前倒しで取組む。完成は24年度末の予定。

Q 公認コースにできないか。

A 18ホール以上、距離1000メートル以上の要件は満たしているが、指導者、管理人の設置が必要で、現状では難しい。

町民会館25周年記念事業の補正対応の内容は

Q なぜ補正予算で取組むのか。事業内容は。

A 当初予定していたコンサートが、東日本大震災でキャンセルとなった。今回新たな助成金を得て、フルオーケストラと町混声合唱団による第九演奏会を開く。

事業費として579万円を予定している。

Q 25周年という大きな節目。町をPRしいメージアップできる貴重な機会だ。戦略的にどうとらえ取組むか。

A 町のPRとなるよう関係課や商工会とも連携し、皆さんの意見を取入れて取組みたい。

Q 著名な演奏家が出演すると町外の聴衆が増える。記念事業の趣旨からも多くの町民に聴いてもらいたい。

A 多くの町民に来てもらえるようケーブルテレビなどでPRしたい。

こんな意見も

●用水・農道などの管理について、土地改良予算の減少で、要望に応えきれないというのが現状。農家から見れば、なかばあきらめにも似た状況だ。

「農地・水保全管理支払交付金事業」のように、関係集落に事をゆだねるだけでは対症療法に過ぎない。

将来展望はどうあるべきか、土地改良区の方向性と行政の責任を示すべきであり、力強い農政の環境整備を願う。



町民会館開館25周年記念公演



農商工連携によるトウガラシ栽培

魅力ある専業農家育成のための施策は何か

町長 規模拡大による低コスト化で強い経営体の育成を図る



中瀬 範幸 議員

問 基幹産業の農業を牽引する専業農家を増やすには、経営の安定、サラリーマン並みの労働条件確保など、魅力ある専業

農家育成が必要だ。町の施策は何か。

米澤町長 国や県、JAなどの関係機関と連携を密に、規模拡大による低コスト化を目指す。

そのための営農指導や

機械設備への支援、後継者や新規就農者の育成、法人化支援などを積極的に進める。

他の職業と互角以上の所得向上を目指した経営体の育成強化を図る。

儲かる農業の推進についての取組みは

複合経営の促進と6次産業化を支援

問 農業経営は、米価が

下落し、転作などの助成金で成立している。

補助金に頼らず、農産物を栽培して、利益を上げる経営こそが「基幹産業の農業」を守る道と考える。

儲かる農業の推進について町の取組みを示せ。

町長 稲作一辺倒では所得の向上につながる。麦、大豆をはじめ野菜、果樹などの特産作物の生産拡大と品質向上を図り、ブランド化を進めて複合経営を促進する。

さらに、農商工連携事業や、加工品など新商品の開発、6次産業化などを積極的に支援する。

入善は工場立地の最適地域だ！全国発信せよ
積極的な企業訪問と町の優位性を発信

問 入善町は豊富な人材、土地、水、電力が十分あり、交通アクセスも良い。加えて地震・台風などの災害がほとんどない工場立地の最適地域だ。

全国発信して企業誘致を進めよ。

竹島農水商工課長 町長自ら積極的に企業に向き、良質な地下水、広大な土地など、データも示しながらPRしている。

特に、3・11震災以降、地震や台風の被害が極めて少ない優位性を前面に打ち出し、企業訪問を行っている。

また、大都市圏での企業立地セミナー、業界紙へのPR広告掲載など、全国発信している。

水の町入善にふさわしい「水の小径」に改修を今後のあり方について検討する

問 「水の小径」は、町内外の方々の利用が多い。しかし砂やヘドロが溜まり、汚いイメージが強い。

魚が泳ぎホタルが飛び交い、子どもたちが水遊びに興じるような「水の小径」に改修せよ。

農水商工課長 水をきれいにするためには地下水のくみ上げが必要になる。一方では、水生生物、昆虫の幼虫など生態系を維持する環境整備の課題もある。

「水の小径」により親水性を持たせ、名水のまち入善をアピールすることには必要なこと。今後のあり方について、検討したい。

町の職員数は少ないのではないか

町長 適切な人員配置を勘案しながら
定数見直しにも着手していきたい



まちづくり懇談会（横山地区）

問 町の職員定数290名に対し、現在の職員数は249名と聞く。職員数が少ないと感じ

る。新規採用を増やしてはどうか。

町長 平成16年から行財政改革に取組んできた。職員数の適正化と人件費の抑制が大きな柱の一つだ。

若者の新規採用も含め、適切な人員配置も勘案しつつ、定数見直しにも着手していきたい。

問 町職員の超過勤務など、労務管理はなされているか。

草島総務課長 予算編成時や住民税などの課税・申告時などに、業務が集中する。

月30時間を超える場合や連続5日以上の超過勤務が予定される場合に、

「超過勤務計画書」による事前の申請・承認を必要とする。

超過勤務予定申請と実績報告により、職員一人ひとりの管理・把握している。

若者雇用での町の支援策を問う

国・県と連携して支援していく

問 若い世代の無就労者への支援対策はどのようなものがあるのか。

農水商工課長 町では、職業能力開発技能訓練奨励金制度や無料職業紹介所を創設し、ハローワークと連携して就労支援を

している。

今後も、国・県と連携して、若者雇用の対策に取組む。

問 「国民の勤労の義務」は、教育のなかで教え込まれているか。

柚木教育委員長 小学校では、各学年に応じて、職場の訪問や農業・漁業で働く人の工夫などを学習している。また、食育に関連して生産・加工・販売の仕事も学習している。

中学校では「14歳の挑戦」で農家や保育所、老人福祉施設など、町内のさまざまな企業・事業所で実践的体験をしている。このように労働の尊さや規範意識などを高め、

将来において課題を自ら乗り越えるたくましさを身に付けるよう教えている。

まちづくり懇談会での要望への対処は

可能なものは着実に対応している

問 町内各地区の要望や意見にどのように対処しているか。

梅津企画財政課長 聞きっぱなしにならないよう「まちづくり懇談会記録誌」を作成し、各地区に配布している。

懇談会で出た要望については、予算編成などで協議し、可能なものは着実に対応している。



佐藤 一仁 議員



自主防災会で消火栓の点検(舟見地内)

並行在来線のJ Rから経営分離の際の
要望書は県と町との約束事
町長 無償譲渡など、再三要望している



九里 郁子 議員

問 並行在来線のJ Rからの経営分離に際して、10年前、町が同意書を提出した。
その際、J R資産の無

償譲渡など、4項目にわたる要望書を添付した。これは、県と町との約束事だったのでないか。
地鉄との相互乗り入れは、宇奈月温泉の宿泊客を町に呼び込むなど、観光の面からも重要ではないか。

J R西日本は、特急を廃止する方針を示した。特急『北越』がなくなると、新潟市へ行くのが大変不便になる。
町として、県に特急の確保を求めるべきだ。
町長 無償譲渡については再三要望している。
地鉄との相互乗り入れは、県並行在来線対策協議会などを通じ、議論を

深めたい。
特急廃止で、関西、東京、新潟方面へのアクセスが不便になる。県の協議会でも国やJ Rに再三要望している。

学者は10以上の津波の可能性を指摘
海底断層の調査を国や県に働きかけたい

問 海岸から一定範囲の電柱に、海抜と避難誘導の表示板設置を求めているが、検討したか。

研究者は、宮崎沖や糸魚川沖などにある海底断層層が大きな地震を引き起こせば、10以上の津波の可能性があると指摘して

いる。詳細なデータがなく残念だとも述べている。国などに調査を求める考えはないか。
黒部ダム崩壊を心配する声がある。電力会社に対する説明責任があるのでないか。

総務課長 新たに設置した避難所看板に海抜を表示した。順次、整備する。未調査の海底断層について調査を、国や県に働きかけたい。

関西電力に情報開示を求め、国や県を通じてシミュレーションなどの実施を働きかけたい。

各地区の自主防災会活動に支援を

支援のあり方を検討したい

問 自主防災会が地域の実情に応じた対策を検討し実施すれば、それに必

要な経費は町が負担すべきでないか。
総務課長 町自主防災連絡協議会の意見なども聞き、支援のあり方を検討したい。

町の特色を生かした水博物館の構想はあるか
実施計画の中で検討したい

問 水博物館について県は、黒部市と似たものでなく、特色あるものであれば入善町にも支援するとしているが、どう考えているか。

企画財政課長 黒部川扇状地の成り立ちと、右岸と左岸のそれぞれの特性の違いをしっかりと表現し、後世に伝えていくことは非常に重要なことと考えている。

今後、総合計画の実施計画で検討したい。

防災計画の進捗状況と

原子力防災への取り組みは

町長

国や県からの情報収集に努め
適切に対応していく

問 現在、見直し中の防

災計画の進捗状況と、原

子力防災への取り組みは。
町長 津波災害を想定し
た避難場所や避難経路の
見直しが必要である。



入善地内に設置されたモニタリングポスト
(新川土木センター入善土木事務所屋上)

志賀原発と本町とは、

直線距離で65km離れてい
るが、気象条件によって
は影響が考えられる。

国や県の原子力防災対
策を見極め、新たな問題
として適切に対応したい。

問 3・11の震災を教訓
に、各地区の今後の防災
訓練を見直しては。

町長 各地区自主防災組
織を中心とする住民主体
の地域特性を考慮した訓
練にしたい。

問 町内幹線道路の路肩
の劣化や崩落が見受けら
れる。早急な整備を。

大角建設下水道課長 路
肩アスファルトの劣化や
除草剤使用による崩落な
どがあり、各地区から改

修・補修の要望が多い。

交通安全の観点から、
県とも連携し出来るだけ
要望に応えたい。

町独自の特色ある教育
環境づくりを
郷土色豊かな伝統文化に
関する学習を充実したい

問 新学習指導要領の改
訂に伴い、小学校におい
ては学習内容の増加や、
新たに英語活動の授業が
盛り込まれた。一学期を
終えての現況は。

滝本教育長 「生きる力」
を育むの基本理念に沿い、
子どもたちとの触れ合う
時間の確保に努力してい
る。

英語活動については、

慣れ親しむを目標にゲー
ム形式で馴染むよう楽し
んでいる。準備期間もあ
り、順調に進んでいる。

問 中学校において、本
町独自の伝統文化を学ぶ
授業を盛り込めないか。
教育長 現在も、郷土を
愛し豊かな心を育む教育
活動を実践している。

「生きる力」を育むに
は、地域ぐるみで取組む
環境づくりが重要だ。

より一層、郷土色豊か
な伝統と文化に関する学
習を充実したい。

問 冊子「入善町の文化
財」は発行から20年経過
した。新たな発行を考え
てはどうか。

教育長 改訂や発行につ
いては、町文化財保護審
議委員会でも取上げられ
ている。各地区の文化財

や祭・伝統文化の把握に
努めている。

今後、完成度の高い冊
子の作製と貴重な文化財
の保存啓蒙に努めたい。

舟川ダム完成後の湖面
の利活用を

目的外の使用であり
県と十分な協議が必要

問 ダム完成後の小水力
発電の可能性は。

また、舟川ダム湖の利
活用を目的に、高校・大
学ポータ部などの合宿誘
致をしてはどうか。

建設下水道課長 小水力
発電は、流量が少なく、
採算面で困難。

湖面の利活用について
は、ダム本来の目的外の
使用となり、県と十分に
協議する必要がある。



野島 浩 議員



整備が待たれるシーサイドロード

「水博物館整備」に対する考えは

町長 現在のところ箱物整備は計画していない



笹島 春人 議員

問 黒部市は目標年次を定め、「水博物館」の本格的な計画策定に入った。本町も、具体的な計画内容を示すべきである。

町長 町は、現在の水に関するフィールド活動と情報発信を活動の中核として、水博物館事業を継続している。地区公民館整備など優先すべき事業が多く、現状では箱物の整備は計画していない。

問 今後の施設整備については、総合計画の中でその役割や必要性などを検討する。

町長 「黒部川扇状地研究所」の協力で、特色ある計画策定を。

町長 研究所では、水に関する調査なども数多く行われ、研究成果が蓄積されている。それらは貴重な地域財産であり、展示物となるものである。

事業化に際しては、研究所に協力を願いたい。

「シーサイドロード」を早急に整備せよ

事業化に向け、関係機関に働きかける

問 黒部川から小川まで、海岸部を東西に走る「シーサイドロード」の整備計画がある。海岸部に点在する観光スポットを線で結び、新たな観光や地域の活性化に寄与する道路である。

具体的な内容の検討や、国・県など関係機関との調整はどの程度進んでいるか。

建設下水道課長 国交省

が管理する海岸堤防沿いの道路を拡幅改良する計画である。

現在進めている海岸防災林事業の造成地に、将来の道路スペースを確保している。

海岸沿いの延長が長く、巨額の費用がかかる。今後、総合計画の中で財政状況も勘案しながら、事業化に向けて関係機関へ働きかける。

町営バスの試験運行をどのように進めるか

きめ細かな、利便性の向上に努める

問 本年11月から、3台体制での試験運行を行うが、結果によっては運行体系や運行路線を変更すべきである。またデマンド方式導入を検討すべきである。

企画財政課長 これまで1台での運行であったため、運行本数が少ない、乗車時間が長い、隔日で路線が変わるなどの不便な点があった。

今後高齢化は進行し、交通弱者や買い物難民の増加が懸念され、町営バスの利便性の向上が重要になる。

町営バスを3台に増車し、不便さの解消を図る。

「町営バスに関するニーズ調査」の結果と、試験運行の状況を見極め、年度内には本格運行に移行する。

ドアツードアのサービスが提供できるデマンド方式については、バスの利用しやすい環境を整え、利用者の増加を優先させながら、運行を求めめる機運が高まった段階で検討する。

母なる川「黒部川」の
概念と、町政への反映は

町長 自然豊かな町の象徴、
幅広い分野で町政に反映



黒部川でのバードウォッチング

問 「黒部川」を町はどのような概念でとらえ、町政に反映しているか。
墓ノ木自然公園のイメージアップと管理体制

は十分か。

町長 自然豊かな町の象徴として、環境や観光、教育など、幅広い分野で町政に反映させたい。

墓ノ木自然公園は、自然とのふれあいを活かした公園として、また県内でも有数の野鳥の生息地として知られており、県内外の観光客や地域住民に親しまれている。

問 学校教育において、ふるさとの川「黒部川」についてどう教えているか。歴史教育、体験学習の状況は。
教育長 教育委員会の重点施策では「自然体験などを通じて、郷土を愛する心の育成に努める」と



鬼原 征彦 議員

定めている。

小学校2、3年生によるサケの稚魚放流の学習や、水生生物を採取・調査する体験学習を行っている。5年生では黒部川の自然観察を行い、川の歴史や生活について理解を深めている。

町民会館25周年記念
事業への対応は

オーケストラと地元
合唱団の共演を企画

問 補正予算で、町民会館25周年記念事業費を増額したのはなぜか。
文化振興策にどのような視点で臨んでいるか。

堂徳教育委員会事務局長

当初、25周年記念で計画していた事業が、東日本大震災により公演中止となった。

今回、初の試みとして、北陸を代表する「オーケストラ・アンサンブル金沢」と地元合唱団との共演となる企画の変更を行った。

文化振興策については、町民ニーズは複雑化し、文化に対する考え方も多様化している。ニーズの把握や情報収集に心掛けたい。

ガスパイプライン計画
に住民より不安の声

町内会単位の説明会
で理解を得たい

問 民間企業が、新幹線側道に天然ガスパイプラ

インを埋設する計画について、沿線住民より不安の声が上がっている。町は不安解消にどのように取り組むのか。

また、側道には水路などの横断箇所も多く、その改修工事に係る費用負担の上昇を懸念する。

企画財政課長 パイプラインの安全性については、使用するガス管は鋼管で、外部からの力に強いという特性がある。過去の震災においても、同種のガス管の損傷、漏えいなどの被害は発生していない。

今後は、会社と共に町内会単位での説明会を順次開催し、理解を得たい。水路などの横断の問題については、沿線地区にとつて、不利益が生じないよう十分に協議を行い、対応したい。



親子で防災マップづくり(上原地区)

消防の広域化に積極的な姿勢を

町長 1市2町で正式な消防広域化へ努力する



大橋 美椰子 議員

問 消防の広域化は、超
少子高齢化の時代を迎え
避けて通れない。タイム
リミットを迎えており、
積極的な姿勢を求める。

町長 高度化する通信機
器や資機材の整備など、
行財政運営の効率化と基
盤強化を図るため、広域
連携などは必要不可欠と
認識している。

期限も迫り、1市2町
で正式な消防広域化の協
議に入ることができると
う努力する。

**防災には自ら災害に
強くなるが必要**

**「まず逃げる」を住民
自身が意識し訓練する**

問 横山、上原地区でそ
れぞれ夜間避難訓練や親
子防災訓練を自発的に行っ
た。災害訓練は「一人ひ
とりが災害に強くなる」

をモットーに取組みを。

総務課長 大災害が発生
した場合、行政機能も麻
痺することがある。

日頃から地震が起きた
ら津波が発生すると考
え、「まず逃げる」とい
うことを住民自らが意識
し、訓練を続けていくこ
とが大切である。

**災害弱者の誘導訓練
を求める**

**普段から訓練と
地域での実践が必要**

問 地域の状況に沿った
訓練が必要だ。また、子
どもや高齢者など、災害
弱者の誘導も加えるよう
推進されたい。

総務課長 災害時要援護
者は、行政・民生委員・
地域支援者だけでは対応
できない。普段から地域
ぐるみのサポートが必要。
ぜひ地域の訓練に誘導を
取入れ実践されたい。

**認知症患者への
往診ができる体制を**

**地元での在宅診療を進
める環境整備を図る**

問 認知症患者を精神科
医が往診し、入院回避に
つなげているとの報道が
ある。

町内各医院が精神科病
院と連携をとり、認知症
患者への往診、投薬がで
きる体制に取組まれたい。

小堀健康福祉課長 県東

部と西部の2カ所の精神
科専門病院に認知症患者
医療センターが開設され
ている。ここに町の保健

事業のメンタルヘルスに
おけるアドバイザーをお
願している。

町内には精神科の医療
機関がなく、専門医によ
る往診体制の実現は困難
である。

地元での在宅診療を進
めていく上で、専門医と
の連携を深め、治療でき
るよう環境整備を図る。

**後発医薬品利用の指導
を強化されたい**

**医療費削減が期待でき、
普及促進に努める**

問 新薬より低価格の後
発医薬品(ジェネリック)
の利用促進を図りたい。

健康福祉課長 ジェネリッ
ク医薬品の普及は医療費

の削減が期待できる。
関係機関の取組みに沿
い、普及促進に努める。

1市2町の消防広域化で町は約6000万円から1億円の負担増か

町長 財政負担の試算はしていない

問 消防力の強化には、一定規模以上の広域化が必要だ。県は10万人規模以上を条件にしている。朝日、入善、黒部の1市2町の広域化では、約8万5000人で小規模消防でしかない。これで、十分な消防力の強化となるのか。

黒部市が議会に示した1市2町での財政負担資料では、完全な広域組合の場合、入善町だけが約6千万円から1億円の負担増になる。

1市2町や6市町村などの枠組みで、町の財政負担はどうなるのか。町はまず、元の魚津市などの協議会に戻り、朝日町、黒部市の参加を促すことだ。

町長 日常の火災や救急に対応するためにも、飛び地での広域化は進めるべきではないと考える。

財政負担については、市町村の枠組みの違いによる試算は行っていない。

意見、要望を聞かせてもらえればと思う
有効な排砂の探求に、漁業者の意見を聞き反映を

はないか。
建設下水道課長 町が、町民の意見、要望に真摯に耳を傾けることは大切なことだ。
より良い排砂となるよう、意見、要望を今後も聞かせてもらえればと考えている。

海岸防災林の整備を今後どう取組む

来年度から横山地区で着手する

問 3月の東日本大震災で、国は津波に対する防災林の有効性を認めた。町の今後の整備計画はどうなっているのか。
今春に春日でマツクイムシ被害木が200数十本伐採された。その後、

新たに20本近くの被害木が確認されている。早期の対策をとるべきだ。
近年、アメリカシロヒトリによる被害が広がっている。町は、1台の防除機を住民に貸出しているが、申込者が多く借りられないこともある。防除機を増やす考えはないか。

建設下水道課長 防災林は、来年度から横山地区の整備に着手する計画で、現在、調査設計を進めている。
森林病害虫への適切な対応と、きめ細かな維持管理を県に働きかけていきたい。
町長 アメシロの防除機は、来年度そろえて貸し出したい。



消防力強化に必要な指令台



松田 俊弘 議員

活発な防災ボランティア活動

総務常任委員会視察記

とほ 鳥羽市・岐南町

8月18日～19日

〈三重県鳥羽市〉

8月18日

各町内会の取組み

防災タウンウォッチングの実施や避難場所、危険箇所、消火ホースの場所、助けが必要な人はどこかなど、地域の人みんなで確認、地図にしている。

市は、老人、子ども、障害者などを、地域で助けあうため、災害時要援護者台帳をつくり、避難訓練や地域での見守りに役立てるよう指導している。

親子で助かる防災活動

平成16年9月紀伊半島沖地震で、鳥羽市内に津波警報が発令された。避難所に集まるのが一番遅

かったのが、小さな子どもがいる家族だった。

このことから、親子で助かる防災活動「子育て応援!! 0、1、2、3サークル」の取組みを母親たちで始めた。

親子防災教室の開催、防災紙芝居やダンゴムシのポーズなどを通して身を守る方法を啓発。小さな子どもを抱えて逃げる方法など、みんなで考えている。

平成17年から主婦の視点・子育ての視点から、防災啓発活動を行っている。防災カルタ、防災紙芝居、新聞紙スリッパ、卵のカラ踏み、タウンウォッチング、マップづくりなどの活動で、平成22年度、消防庁長官賞を受賞した。

有志で地域密着の活動 鳥羽「防災ボランティアアホっと」

子育てサークルの代表者、民生委員、鳥羽市ボランティア協議会会員、三重防災コーディネーター、三重防災市民会議会員など、市の地域防災力を向上させるために、有志で「防災ボランティアアホっと」を立ち上げた。

親子防災啓発ツアー、児童生徒の1日福祉体験教室を開催している。また、地域の高齢者サロンの防災講習や家具固定具取付ボランティア、非常持ち出し袋の講習会などを行っている。平成22年度、三重県の防災奨励賞を受賞した。

子どもたちによる防災マップづくり

「安楽島子ども会」

平成11年度から「自分達のは自分の手で」と、安楽島の子どもたちが町内を点検して歩き、防災マップをつくった。

マップのテーマは「地震・津波」。子どもたちは消防団や一人暮らしの

老人たちなどを訪ねた。また、危険な箇所を見て歩き、マップに問題箇所の写真を貼りつけた。

平成22年度、小学生の防災探検隊マップコンクールで、過去5年に及ぶ継続的な取組みが評価され、防災担当大臣賞を受賞した。

鳥羽市役所で説明を受ける



デマンド交通システム

〈コミュニティタクシー〉

〈岐阜県岐南町〉

8月19日

岐南町は人口2万4000人弱、岐阜県の玄関口、交通の要衝として、岐南インターは県下一の交通量を誇っている。

従来「にじバス」と呼ばれる巡回バスを運行していたが、町の財政を圧迫したことから、平成21年10月よりデマンド交通となった。

岐南名鉄タクシー(株)が運行事業者として引き受けている。

事前に乗車の予約をし、指定の49ある停留所で待つ。複数の人との乗合わせのため、到着時刻は変動することがあるとのこと。
料金は1回200円である。

震災でも交流の火を消さない

姉妹都市「登米市」と交流（8回目）

7月27～29日

小・中学生 計18名

今年の宮城県登米市訪問は、実施が危ぶまれた面もあったそうです。

使節団の団長（入善小学校長）は、「復旧活動の傍ら、これまでの交流事業の火を消さないという、登米市の皆さんの強い意志を感じた訪問でした」と述べています。



みんなから託されたメッセージを届けに

被害の大きさに驚き

宮城県は米どころ。水田も多く見られたが、田んぼの中には木材や車があったり、雑草も生えて

いました。道路の一部が浮き出ているところや土砂崩れの跡もありました。（中2）

体育館では避難所生活をしておられました。お土産屋さんにも、震災のときに津波が大人の首の高さまで来たと表示してありました。

多くの仮設住宅が見えたときはすごく驚きました。家を失って不自由な生活をしている人がこんなにもいるのだと。また、避難所ではダンボールでしきりをして毎日を過ごしているんだと、辛い気持ちでいっぱいになりました。

被災の話聞いた事を思い出すと、すごく怖くなってきました。（中2）

南三陸町戸倉小の皆が地震のために、今、旧善王寺小へ来て勉強している。たくさん友達をつくって楽しく過ごしてほしいな。（小5）

印象に残った戸倉小学

校長の話。

「津波が来るということと近くの高台に避難した。そこにも届きそうだと分かって、全員で歩いてもつと山まで行った。その2分後くらいに、その高台にも波が届いて周りのものが全部流された」（中2）

逆に勇気をもらった

畑や田が地震や津波でぐちゃぐちゃになっていて、とても悲しい気持ちになりました。

米山の人たちの地震や津波にも負けずに笑顔で

生活をしている様子を見て、とても感動した。（小5）

あきらめないという強い心がありました。勇気をあげなくてはならないのに逆に私たちが勇気をもりました。震災にあった人は、皆復興に向けて努力しています。（小5）

被災されている皆さんのために何が出来るか考えていきたい。

交流で学んだことを入善のみんなに伝えたい。登米市も被害にあつて大変だということを常に頭に入れ、一日でも早い復興のために自分自身努力して生活していきたい。（中2）

自然のなかで「林間楽校」

米山の小学校の人たちと、海洋性スポーツを楽しみました。ドラゴンボート、モーターボート、カヌー、発泡渡り、ローボードなど、平筒沼



林間楽校で楽しいひと時



「またおこし」に見送られて

の水上で行いました。「林間楽校」で体験した事を思い出すと、とても楽しい気持ちになりました。

ローボード、一人だけが一生懸命にこいでもだめで、みんなで同じ強さや速さでこぐことが大事なんだと分かりました。（小5）

ぼくが一番楽しかったことはモーターボートです。生まれて初めてで、自動車並みのスピードでした。（小6）

生涯現役

井田和子さん 83歳 (飯野)



三味線の音色に魅せられて

かつて芦崎地区は、男性の多くが遠く北洋のサケマス漁業に従事しておられ、主婦の皆さんは家庭を守りながら、生きがいや楽しみを求めておられた。

地区婦人会長を務めておられた井田さんは、地域の婦人層の教養を身につけるための講座の開催を決意。昭和43年に地区の婦人学級で、郷土民謡を取り入れた。その時の三味線の音色に魅了されたことがキッカケとなつて、今も「民謡さざ波会」の会主を務めておられる。

人との出会いに感謝

昭和47年に民謡好きな地域の女性たちと同会を結成され、以降、三味線、唄、踊りの定期的な練習に励んでおられる。本人は三味線と唄を担当。常にリーダーとして会の発展に努めて来られた。

個人的には、加賀山流家元である加賀山昭師との出会いが、民謡に対する愛着を一層強いものにし、人生を大きく変えることになった。昭和54年には、加賀山流師範「加賀山昭和」の免許を受けておられる。

「富山風雪賞」を受賞

「民謡さざ波会」は、民謡を通して人と人とのふれあいを大切にしながら、福祉施設や地域のイベントなどで活動内容を披露しておられる。平成19年には、長年に亘る地域への貢献が評価され、郷土芸能の普及と民謡の楽しさを伝えられた功績で「富山風雪賞」を受賞された。

また多くの友人や仲間が受賞祝賀会を開いてくれたことは、一生の宝ものとなっている。

とのこと。

趣味の世界を極めたい

民謡は先祖伝来の心のふるさとであり、親しみ深く、奥深い素晴らしい唄である。このよき民謡に縁を持つて今日まで来られたのは一生の幸せである、と井田さんは言う。

好きで始めた「趣味の世界を極めたい」という強い気持がここまで来られた秘訣」と語られた。

「和と輪のなかで唄いつがれて」

「さざ波会」を結成して40年。先日コスモホールで、これまで支えて頂いた皆さんへの感謝とこれまでの集大成を披露する「記念リサイタル」を開催された。

「人との和、グループとの繋がりの中で、頑張つて来れたことに感謝する気持ちを決めたリサイタルになった」と、安堵の表情を浮かべられた。

民謡の持つ魅力を後世に

民謡に対する関心が薄れつつある中で、その土地に根差してきた民謡を後世に伝えるためにも、民謡の持つ魅力を発信し、今後も民謡を愛する人たちと練習を続ける中で、仲間を増やしたいと力強く述べられた。

編集の窓

台風12・15号が全国で甚大な被害をもたらしました。幸いにも本町では、被害もなく、実り豊かな稲の刈り取りも終わりました。一部での害虫による被害が気になる所です。

さて、9月、野田新内閣が発足、国の再建を目指しスタートしました。復興の基本はあくまで人間であり地域を主体に進めていくことが求められています。

町の今の課題は、消防の広域化、地域交通のあり方など「住民の安心と安全」を守ることです。

「議会だより」を通じて議員の活動が皆様に伝わるよう常に工夫してまいります。

議会広報編集特別委員会

- 議長 松澤 孝浩
- 委員長 長田 武志
- 副委員長 松田 俊弘
- 委員 大橋美椰子
- 委員 鬼原 征彦
- 委員 菅島 春人
- 委員 野島 浩